

## スマホのシャッター音

大津 隆文

孫娘の米国旅行での体験談。とあるスーパーで飲み物の試飲サービスをしていたので、飲ませてもらうおうちと思ったところ、「十八歳以下の人は親と一緒に来てください」「私は二十歳ですけど」「あら、ではどうぞ」との応答があったとのこと。

日本人は若く見られる一例かも知れないが、興味を引かれたのは十八歳以下の自由な試食や試飲が制限されていることだ。アレルギー問題を考えれば適切な措置で、米政府は打つ手が早いな、と思った。

しかし娘の話では、日本でも同じ系列のスーパー「コストコ」では、子どもに同様な注意をしているとのこと。とすればこれは公的な規制ではなく、そのスーパーの自主的なルールかもしれない。また日本の試食販売でも子どもだけの場合には、「お母さんどこにいるかな？」と尋ねているとも聞く。

もう一つ、孫娘の体験談。あちらで写真を撮った際、スマホのカシャツというシャッター音がしなかったという。今まで考えもしなかったが、自動的に音がするのは盗撮防止上の日本独自の仕様で、米国では関係ないらしい。調べてみると、我が国では盗撮の社会問題化に伴い、2000年からメーカーが自主的に有音設定している。

逆に音がしては困る、例えば、寝ている赤ちゃんの写真をそっと撮りたい、撮影が許されている美術館や劇場でも音がすると周りに迷惑になる等々の意見がある。こうした場合は、面倒だが無音化は不可能ではなく、罰されることもない。

一方、お隣の韓国では2003年から一定以上の音量での有音化が法的義務になっている。自主規制ではルールを守らない悪意の人を排除できないが、これなら趣旨を徹底できる。

政府による公的規制と民間の自主規制には一長一短があり、問題に応じて選択すべきだろうが、可能なら自主規制を優先してどうか。政府がなんでも罰則付きで強制的に物事を律する社会よりは、民間内部の自主性により律する社会の方が、柔軟性、発展性が高く、住み心地もよさそうだ。